

思春期の心性に関する研究 「キレル」子どもの特徴

木 澤 光 子

家政学部家政学科家政学専攻

(2003年9月11日受理)

A Study on Adolescent Mentality “Kireru” Children’s Feature

Department of Home Economics, Faculty of Home Economics,
Gifu Women’s University, 80 Taromaru, Gifu City, Japan (〒501 - 2592)

KIZAWA Mitsuko

(Received September 11, 2003)

1. はじめに

1997年、神戸の酒鬼薔薇聖斗と名のる14歳の少年による犯罪が起こり、世間を震撼とさせたことは記憶に新しい。その事件以来、小・中・高等学校の児童生徒による犯罪が続発し、思春期の子どもが注目されてきた。

昨今の思春期の子どもを巡る問題は、凶悪化と低年齢化、そしてそれらがそれまでごく普通に暮らしてきた普通の少年によるものというアンバランスさと特異性によって、私たちを驚愕させている。

このような問題の発生の原因には、過保護、過干渉、溺愛、拒否などの親の養育態度の問題を指摘することが多い。しかし、西村春男(1999)は、養育態度如何に関わらず、後年に起こる非行は、社会的な要因によって起こることがあると指摘する。西村は社会的要因として社会制度・社会構造、家庭の条件、学校の条件、状況要因(交友、誘惑、監視)をあげ、この要因配置に関連して次のことを補足している。

「人はいきなり大きな非行・犯罪をするものかどうか。むしろ問題行為をし、それに対する取扱い、すなわち家庭、学校、警察を含む社会の対応がいくつか積み重ねられて現在に至ると理解される。」つまり、いきなりの大きな非行・犯罪はなく、初発の非行に対しての対応のまずさが重なることによって、大きな犯罪に至ると述べている。しかし今日の非行は、それまで「いい子」だった子どもの突然の大きな事件の発生に特色があるように言われ、西村の説は一見否定されるように思われる。

筆者が臨床で関わったり、スクールカウンセラーとして関わった子どもたちの中には、「気配もなかったのに、突然起こった」と身近な人たちが表現するケースが少なくない。しかし、よく話を聞いていくと我慢に我慢を重ねた結果であって、兆候は見いださずともすでにギリギリの状態で溢れ出すようにも感じられる。子どもたちが限界に近いところにあり、危機状況を知らせていても、刺激が多過ぎる毎日で、我々がメッセージを受信

しにくい状況にあるのかもしれない。しかし感知しにくい状況の中でも、明確な危機メッセージを見出すことができれば、子どもの危機を未然に防ぐことができるであろう。

そこで、本研究の目的は、成績の善し悪しによってどのように日常生活の意識が異なるのか、また、唐突に怒りだした経験のある子どもの特徴を明らかにし、子どもたちが発信する『キレる』前兆について検討する。

2. 方法

1) 対象者

表1のように、岐阜県M中学校2年生72人3年生85人の計157人にアンケートを実施した。

2) 調査日時及び場所

表1 対象者数

	2年生	3年生	合計
被調査者	72(45.9)	85(54.1)	157(100.0)
回収数	72(45.9)	85(54.1)	157(100.0)

()内は%

本調査は、平成14年7月、岐阜県のM中学校で実施した。

3) 調査の手続き

授業時間の一部を使い、担任により質問紙を配布、その場で回答させて回収した。

4) 調査内容

調査内容は、学年、性別、学校生活、癖、自己の認識、行動、相談相手についてであり、質問の数は33項目である。この質問紙を作成するに当たり、NHK「14歳・心の風景」、町沢静夫「佐賀バスジャック事件の警告」、朝日新聞社「暗い森」を参考にした。

質問1～質問30は、「はい」「どちらともいえない」「いいえ」の3件法で回答し、「はい」は1点、「どちらともいえない」には2点「いいえ」には3点と点数を与えた。質問31～質

問33は選択肢をあげ、その中から選ぶように指示した。また最後に、「あなたが現在大人に言いたいことや感じていることなどがありましたら自由に書いてください」と自由記述方式で、忌憚のない気持ちを述べてもらえるように構成した。

5) 結果の処理法

結果の処理は、解析ソフト SPSS8.5を用い、平均値の差についてT検定を行い、分散の差はF検定を行った。

3. 結果と考察

1) 学校の成績による日常の意識の違いについて

「学校の成績は良い方ですか」と言う問に対し、「良い方だと思う どちらかという」と良い方だと思う 普通 どちらかという」とよくない方だと思う よくない方だと思う」の5件から1つ選択してもらった。その結果より「良い方だと思う」と「どちらかという」と良い方だと思う」を選んだ自己評価の高い群を『成績上位群』、そして「どちらかという」とよくない方だと思う」と「よくない方だと思う」の自己評価の低い群を『成績下位群』とし、学校生活、癖、自己の認識、行動に関する質問1～質問30とのクロス集計を行った。表2はその結果である。

表2より、『成績上位群』と『成績下位群』間で、その平均に有意な差が認められたものは9項目であった。具体的にみていくと、「家族などに自分の思いを素直に出せる」の項目に有意差が見られたのは、『成績上位群』では平均1.84『成績下位群』2.16であり、『成績上位群』は『成績下位群』よりも自分の気持ちを素直に出せる人が多く平均値が低くなった。また、「意味もなく疲れを感じることを経験したことがある」の項目では『成績上位群』1.97、『成績下位群』1.61で、上位

表2 学校の成績と日常の意識との関係

	学校の成績	N	平均値	標準偏差	T検定	F検定
1. 休憩時間が楽しい	成績上位群	32	1.34375	0.482559		
	成績下位群	64	1.390625	0.580563		
2. 朝食は毎日とっている	成績上位群	32	1.0625	0.245935		**
	成績下位群	64	1.25	0.534522		
3. ペアを組もうとしたとき、はずされそうで不安になることがある	成績上位群	32	2.21875	0.750672		
	成績下位群	64	2.109375	0.692756		
4. 戦いのゲームが好きだ	成績上位群	32	1.84375	0.723316		
	成績下位群	64	1.796875	0.800391		
5. 家族などに自分の思いを素直に出せる	成績上位群	32	1.84375	0.677251	*	
	成績下位群	64	2.15625	0.739342		
6. 私は友人を作ることがへたである	成績上位群	32	2.03125	0.646797		
	成績下位群	63	1.920635	0.679221		
7. 悲しいことはすぐ忘れるほうだ	成績上位群	32	2.03125	0.739851		
	成績下位群	64	2.234375	0.771356		
8. 他の人から自分がどう評価されているのかいつも心配だ	成績上位群	32	1.96875	0.739851		
	成績下位群	64	1.8125	0.731925		
9. 寝ているとき、よく夢を見る	成績上位群	32	2.125	0.832796		
	成績下位群	64	1.890625	0.779035		
10. 友だちと遊んだり話したりしていると楽しい	成績上位群	32	1.125	0.336011		*
	成績下位群	63	1.222222	0.521921		
11. 意味もなく「疲れ」を感じることを経験したことがある	成績上位群	32	1.96875	0.822442	*	
	成績下位群	64	1.609375	0.80902		
12. 貧乏ゆすりをする癖がある	成績上位群	32	2.375	0.751343		
	成績下位群	64	2.34375	0.781101		
13. 趣味やスポーツなど、夢中になるものがある	成績上位群	32	1.21875	0.608243		
	成績下位群	64	1.296875	0.554339		
14. 突然怒りだしたことがある	成績上位群	32	2.3125	0.820602		
	成績下位群	64	2.15625	0.820738		
15. 友だちがいなくても困らないと思う	成績上位群	32	2.40625	0.756024		
	成績下位群	63	2.492063	0.668967		
16. 早く大人になりたい	成績上位群	32	2.34375	0.601577		
	成績下位群	64	2.078125	0.649901		
17. 腹が立って人を殴ったり、ののしったりしたことがある	成績上位群	32	2.28125	0.851351		
	成績下位群	64	2.140625	0.870453		
18. いつも何かに我慢している	成績上位群	32	2.1875	0.820602	*	
	成績下位群	64	1.828125	0.787898		
19. 私は思いやりがあると思う	成績上位群	32	2.03125	0.646797		
	成績下位群	64	2.125	0.48795		
20. いつも私はひとりぼっちだと思う	成績上位群	32	2.34375	0.700662		
	成績下位群	64	2.3125	0.61399		
21. 大きなことをして目立ちたい	成績上位群	32	2.03125	0.646797	*	
	成績下位群	64	2.390625	0.632887		
22. 自分のことが好きだ	成績上位群	32	1.9375	0.669015	*	
	成績下位群	63	2.253968	0.646785		
23. 大人の言うことに腹が立って仕方がない	成績上位群	32	1.96875	0.646797		**
	成績下位群	64	1.734375	0.760997		
24. 私の周りですべてでもないことが起こりそうだと感じる	成績上位群	32	2.40625	0.756024		
	成績下位群	64	2.296875	0.749173		
25. 親友がいる	成績上位群	32	1.5625	0.715609		
	成績下位群	64	1.515625	0.689886		
26. 私は生まれてこなければ良かったと思う	成績上位群	32	2.65625	0.653002	*	
	成績下位群	64	2.359375	0.698461		
27. 私はどんな人間なのかわからない	成績上位群	32	2.0625	0.715609	*	
	成績下位群	64	1.734375	0.760997		
28. つめを噛むくせがある	成績上位群	32	2.75	0.567962		**
	成績下位群	64	2.53125	0.776004		
29. 自分の将来は明るいと思う	成績上位群	32	1.71875	0.634206	*	
	成績下位群	64	2.078125	0.625		
30. 私は幸せである	成績上位群	32	1.40625	0.498991	**	
	成績下位群	64	1.953125	0.652947		

* : p < .05

** : p < .01

群は下位群に比べて理解できない疲労感を感じることが少ない。次に「いつも何かに我慢している」の項目に有意差が認められ、『成績上位群』は2.19、『成績下位群』は1.83であり、下位群の方が何かを我慢していると思っていることがわかる。「大きなことをして目立ちたい」では、『成績上位群』2.03、『成績下位群』2.39であり、上位群の方が下位群よりも目立ちたいと思っている。次に、「自分のことが好きだ」の項目にも有意差が認められ、上位群1.94、下位群2.25であった。上位群の方が下位群よりも自己肯定感を持ち自分を好きだと感じている。次に有意差の認められた項目は「私は生まれてこなければ良かったと思う」で、上位群2.66、下位群2.40である。下位群の方が上位群よりも自分の存在の否定をしている傾向があることが認められる。「私はどんな人間なのかわからない」にも有意な差が認められ、上位群2.06下位群1.73であった。下位群の方が自己の同一化に悩む様子がうかがわれる。「私の将来は明るいと思う」では、上位群1.71、下位群2.09で有意差が認められた。上位群の方が下位群よりも自己の将来に希望を持っていると思われる。また、「私は幸せである」は、上位群1.41、下位群1.95で成績上位群の方が幸福感を持っている。

以上より、成績の上位の子どもの方が平均値が低く、その傾向があると考えられる項目は、「家族などに自分の思いを素直に出せる」「大きなことをして目立ちたい」「自分のことが好きだ」「自分の将来は明るいと思う」「自分は幸せである」の5項目である。一方、成績の下位の子どもの方が平均値が低く、傾向があると考えられる項目は、「意味もなく疲れを感じることを経験したことがある」「いつも何かに我慢している」「私は生まれてこなければ良かったと思う」「私はどんな人間なのかわ

からない」の4項目である。

成績上位群の方が、自己肯定感を持ち、現在の状況に満足している。また、将来への希望を感じ、成功するなど良い意味での大きなことをして周囲に認められることを望んでいる。それに対し、成績下位群では疲労感を持ち、何に我慢しているのかわからないが、我慢していると感じている。自分がどんな人間かもわからず、また自分の生存の意味さえも見いだせない状態にあり、常にストレスを感じている状況と言えよう。

次に分散の差を見てみると「朝食は毎日とっている」「友達と遊んだり話したりしていると楽しい」「大人の言うことに腹が立って仕方がない」「爪をかむ癖がある」の4項目に有意差が認められた。この4項目とも成績下位群の方が標準偏差が高く、個人差が大きいことがうかがわれ、上位群のこの項目に関する傾向は個人差が小さい。成績を肯定的に受け止めることができる子どもは、生活習慣、人間関係、大人への反発の気持ち、爪かみに一様の傾向があると思われる。

以上より、成績が良いと自己評価している子どもは、総合的に自分を肯定的に受け止めることができるが、成績が悪いと自己評価している子どもは、勉強のすべての面において不全感を感じていると思われる。成績の善し悪しが、自己の存在の意義に繋がるような大きな価値を持つものであるということが言えるのではないだろうか。また、自分の成績をどのように受け止めているのか、どんなに成績が良くても満足していなければ希望を持っていないストレスフルな状態になると考えられる。子どもの生活時間の大半を占める学校生活における成績評価の善し悪しの受けとめ方が、子ども自身の自己肯定感を決定することがうかがわれ、健康な人格と成績との関係は深い。

2) 突然の怒りと日常の意識について

「突然怒りだしたことがあるか」と言う問に「はい」と答えたもの(以後キレル群)と「いいえ」と答えたもの(以後キレない群)に分け、質問1から質問30(質問14は除く)とのクロス集計を行った。その結果、表3のように平均に有意な差が認められたものが12項目あった。

「ペアを組もうとしたとき、はずされそうで不安になることがある」という項目に有意な差が見られ、『キレル群』は1.93、『キレない群』2.36であった。『キレル群』の方が、グループを組むとき自分が皆に受け入れられていないかもしれないという不安が高い。「悲しいことはすぐ忘れる方だ」では、『キレル群』は2.38、『キレない群』2.03で、『キレル群』の方が悲しいことをなかなか処理できずに忘れられず、引きずる傾向がある。また「他の人から自分がどう評価されているのかいつも心配だ」という項目では、『キレル群』1.58、『キレない群』2.15であり、『キレル群』は、他者からの評価をいつも気にしている。「意味もなく疲れを感じることを経験したことがある」では『キレル群』1.33、『キレない群』2.07という結果であり、『キレル群』は何の理由もなく疲労感を感じている。また、「腹が立って人を殴ったり、ののしったりしたことがある」にも有意な差が認められ、『キレル群』は1.88、『キレない群』は2.47であった。『キレル群』は腹を立てやすく、他者に暴力的になる傾向がある。次に有意な差が認められた項目「いつも何かに我慢している」では、『キレル群』1.58、『キレない群』2.21で、「キレル群」の方が『キレない群』よりも、何かに我慢している気持ち強い。次に「いつも私は独りぼっちだと思う」の項目でも有意な差が認められた。『キレル群』2.03、『キレない群』2.58で、キレル群の方が、孤

独感を感じている。「大きなことをして目立ちたい」では、『キレル群』は1.9、『キレない群』2.40であった。『キレル群』の方が大きなことをして目立ちたいと思っている。「大人の言うことに腹が立って仕方がない」の項目に有意差が見られ、『キレル群』は1.48、『キレない群』2.04であった。『キレル群』の方が大人の言うことに常に腹を立て、イライラしている状況がうかがわれる。また、「私の周りでとんでもないことが起こりそうだと感じる」にも有意な差が見られ、『キレル群』では1.95、『キレない群』2.66と『キレル群』の方が、悪いことが起きる不安をもっている。「私は生まれてこなければ良かったと思う」では、『キレル群』2.18、『キレない群』2.70で自己の存在の否定をしていることがわかる。最後に「私はどんな人間なのかわからない」にも有意な差が認められた。この項目では『キレル群』1.6、『キレない群』2.19で『キレル群』の方が自我同一性も確立しにくいようである。

以上の結果より、『キレル群』の特徴には、「ペアを組もうとしたとき、はずされそうで不安になることがある」「他の人から自分がどう評価されているのか心配だ」「意味もなく疲れを感じることを経験したことがある」「腹が立って人を殴ったり、ののしったりしたことがある」「いつも何かに我慢している」「いつも私は独りぼっちである」「大きなことをして目立ちたい」「大人の言うことに腹が立って仕方がない」「私の周りでとんでもないことが起こりそうだと感じる」「私は生まれてこなければ良かった」「私はどんな人間なのかわからない」の11項目であり、『キレない群』に比べて人間関係の不安、疲労感、衝動性、認知への希求、ストレスへの過敏性、将来への不安、自己否定感など不安が高い。

一方『キレない群』の特徴は、「悲しいこ

表3 日常の意識と「14.突然怒りだしたことがある」との関係

	突然怒る	N	平均値	標準偏差	T検定	F検定
1. 休憩時間が楽しい	はい	40	1.325	0.572332161		
	いいえ	73	1.342465753	0.506051658		
2. 朝食は毎日とっている	はい	40	1.15	0.361620285		
	いいえ	73	1.191780822	0.517942893		
3. ペアを組もうとしたとき、はずされそうで不安になることがある	はい	40	1.925	0.693837341	**	
	いいえ	73	2.356164384	0.674328123		
4. 戦いのゲームが好きだ	はい	40	1.65	0.769615289		
	いいえ	73	1.876712329	0.72543484		
5. 家族などに自分の思いを素直に出せる	はい	40	2.2	0.822753351		*
	いいえ	73	1.931506849	0.713535157		
6. 私は友人を作ることがへたである	はい	40	1.9	0.632455532		
	いいえ	72	2.097222222	0.695249924		
7. 悲しいことはすぐ忘れるほうだ	はい	40	2.375	0.774182778	*	*
	いいえ	72	2.027777778	0.711519347		
8. 他の人から自分がどう評価されているのかいつも心配だ	はい	40	1.575	0.747217059	**	
	いいえ	73	2.150684932	0.659781801		
9. 寝ているとき、夢をよく見る	はい	40	1.8	0.790974731		
	いいえ	73	2	0.763762616		
10. 友だちと遊んだり話したりしていると楽しい	はい	40	1.4	0.590523453		**
	いいえ	71	1.154929577	0.435820649		
11. 意味もなく「疲れ」を感じることを経験したことがある	はい	40	1.325	0.572332161	**	**
	いいえ	73	2.068493151	0.822070001		
12. 貧乏ゆすりをする癖がある。	はい	40	2.325	0.797029742		
	いいえ	73	2.465753425	0.728052802		
13. 趣味やスポーツなど、夢中になるものがある。	はい	40	1.475	0.750640752		*
	いいえ	72	1.333333333	0.605142283		
15. 友だちがいなくても困らないと思う	はい	40	2.475	0.715667162		
	いいえ	71	2.535211268	0.672542849		
16. 早く大人になりたい	はい	40	1.975	0.73336247		
	いいえ	73	2.191780822	0.680227377		
17. 腹が立って人を殴ったり、ののしったりしたことがある	はい	40	1.875	0.852973682	**	
	いいえ	73	2.465753425	0.800732161		
18. いつも何かに我慢している	はい	40	1.575	0.747217059	**	
	いいえ	73	2.205479452	0.815797226		
19. 私は思いやりがあると思う	はい	40	2.15	0.622237485		
	いいえ	73	2.082191781	0.520507889		
20. いつも私は独りぼっちだと思う	はい	40	2.025	0.659739653	**	
	いいえ	73	2.575342466	0.575369645		
21. 大きなことをして目立ちたい	はい	40	1.9	0.708917557	**	
	いいえ	73	2.397260274	0.617785607		
22. 自分のことが好きだ	はい	39	2.256410256	0.751067616		**
	いいえ	72	2.208333333	0.555066295		
23. 大人の言うことに腹が立って仕方がない	はい	40	1.475	0.640012019	**	
	いいえ	73	2.04109589	0.715665117		
24. 私の周りですべてでもないことが起こりそうだと感じる	はい	40	1.95	0.782828533	**	
	いいえ	73	2.657534247	0.628472091		
25. 親友がいる	はい	40	1.625	0.774182778		**
	いいえ	73	1.369863014	0.589417069		
26. 私は生まれてこなければよかったと思う	はい	40	2.175	0.712075335	**	
	いいえ	73	2.698630137	0.593598525		
27. 私はどんな人間なのかわからない	はい	40	1.6	0.777899868	**	
	いいえ	73	2.191780822	0.719906133		
28. つめを噛む癖がある	はい	40	2.55	0.714322343		**
	いいえ	73	2.794520548	0.576360808		
29. 自分の将来は明るいと思う	はい	40	2.05	0.7493587		
	いいえ	73	1.821917808	0.58553076		
30. 私は幸せである	はい	40	1.825	0.675106829		
	いいえ	73	1.684931507	0.620857658		

* : p < .05

** : p < .01

とはすぐ忘れる』のみであり、逆に言えば『キレル群』の特徴として、悲しいことをなかなか忘れられないということが言える。辛いことがあるといつまでも引きずってしまい、忘れられない傾向があると思われる。生島浩(1998)は非行少年の特徴として「強迫性」をあげているが、『キレル群』の辛い記憶への固執に当たると考えられる。つまり、こだわり、しつこさが病理的に見られ、生島が「自分のやり方に固執して融通が利かず、思いこみも激しく、対人関係が苦手で・・・」と述べている特徴と一致すると考えられる。また、本研究より、『キレル群』は他人からの評価を気にして、他者との関係をうまくもてないと感じていることが明らかになったが、生島も、非行少年の特徴に友人の少なさを指摘しており、信頼関係を形成しにくい彼ら自身の人格上の問題に触れている。また、非行は一見エネルギーに満ちたもののように見えるが、今日の非行はエネルギーに乏しく、凶悪事件を突発的に起こしたり、集団という力動の中でゲームの延長のように無自覚な状態で起こっていると述べている。このことは、非行少年とキレル少年の状態像の区別はし難いと言うことになるのではないだろうか。本研究において、唐突に怒りを爆発させる『キレル』の前兆とも言える特徴を見いだそうとしたが、すなわちこれまですでに発表されている非行少年の特徴と近似するものである。

また分散の差より、「家族などに自分の思いを素直に出せる」「悲しいことはすぐ忘れる方だ」「友達と遊んだり話したりしていると楽しい」「趣味やスポーツなど、夢中になるものがある」「自分のことが好きだ」「親友がいる」「爪をかむ癖がある」という項目に、『キレル群』の方がより分散があり、個人差が大きいことがわかる。『キレル群』に分散が見られるものは「意味もなく疲れを感じることを

経験したことがある」のみであり、疲労感は平均値と標準偏差から『キレル群』に様に認められる状態と言えるのではないだろうか。

いい子がキレルと一般的に言われるが、学校生活に適応し、友人も多く、成績を含め自己に満足している子どもたちは、『キレル』ことから最も遠い位置にいる子どもと考えられる。いい子がキレルのではなく、いい子はやはり抑制力を持つ安定した子である。キレル子どもたちの心性には、非行少年に見られる特徴と一致するものが多く、具体的には自己肯定感の乏しさ、人間関係への不安、疲労感、衝動性、ストレスへの過敏性、将来への不安、強迫性などの特徴が認められる。

4. 要約

本研究は、『キレル』子どもの特徴を明らかにし、その前兆を見いだすことを目的に行った。岐阜県の中学生を対象にアンケートを行った結果、次のようなことが明らかになった。

成績上位群の方が、自己肯定感を持ち、現在の状況に満足している。また、将来への希望を感じ、成功するなど良い意味での大きなことをして周囲に認められることを望んでいる。

成績下位群では疲労感を持ち、何に我慢しているのかわからないが、我慢していると感じている。自分がどんな人間かわからず、また自分の生存の意味さえも見いだせない状態にあり、常にストレスを感じている。

成績を肯定的に受け止めることができる子どもは、生活習慣、人間関係、大人への反発の気持ち、爪かみに一様の傾向があり、個人差が少ない。

『キレル群』は『キレル群』に比べて

人間関係の不安, 疲労感, 衝動性, 認知への希求, ストレッサーへの過敏性, 将来への不安, 自己否定感, 強迫性の特徴が見られた。

『キレル群』の方が, 「家族などに自分の思いを素直に出せる」「悲しいことはすぐ忘れる方だ」「友達と遊んだり話したりしていると楽しい」「趣味やスポーツなど, 夢中になるものがある」「自分のことが好きだ」「親友がいる」「爪をかむ癖がある」という項目に個人差が見られた。

疲労感は, 平均値と標準偏差から『キレル群』に一樣に認められる心性であると考えられた。

この他, データに有意な差が認められた項目で, 成績上位群の特徴として「大きなことをして目立ちたい」があったが, 『キレル群』の特徴でも同じ項目が特徴として認められた。安定していると考えられる『成績上位群』と逆に不安定と考えられる『キレル群』に共通に見られたこの項目について矛盾するものであり, 今後の研究の課題としたい。

さて, いい子はキレル子どもではなく, 最も安定した子どもたちと言える。マスコミや多くの出版物によっていい子が危ないとセンセーショナルに取り上げられ, 親たちは子育てに不安を持ったが, 刺激的なコピーに翻弄されることなく, 大人は子どもたちに暖かいエールを送ることが必要ではないだろうか。

本研究をまとめるに当たり, 資料を提供してくださった卒業生山口祐代さんに感謝します。

参考文献

- 1) 遠藤辰雄「非行心理学」朝倉書店 1974
- 2) 生島浩「非行少年への対応と援助 非行臨床実践ガイド」金剛出版 1993
- 3) 生島浩 村松励「非行臨床の実践」金剛出版 1998
- 4) 麦島文夫「非行の原因」東京大学出版 1990
- 5) 西村春男企画・編集「1975～1988少年非行」ソフトサイエンス社 1999